

風
韻

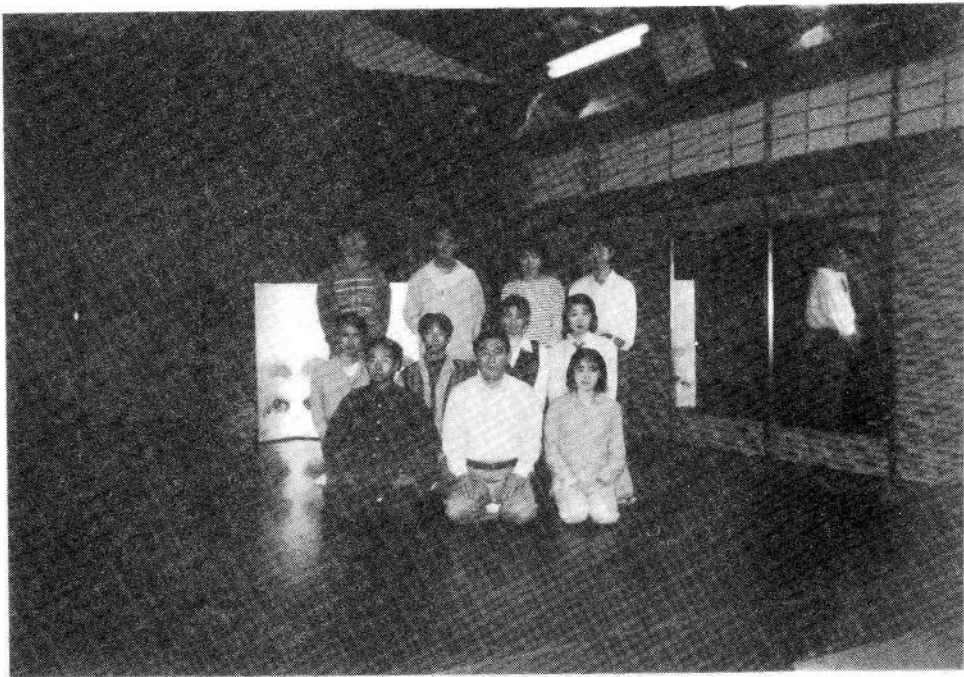
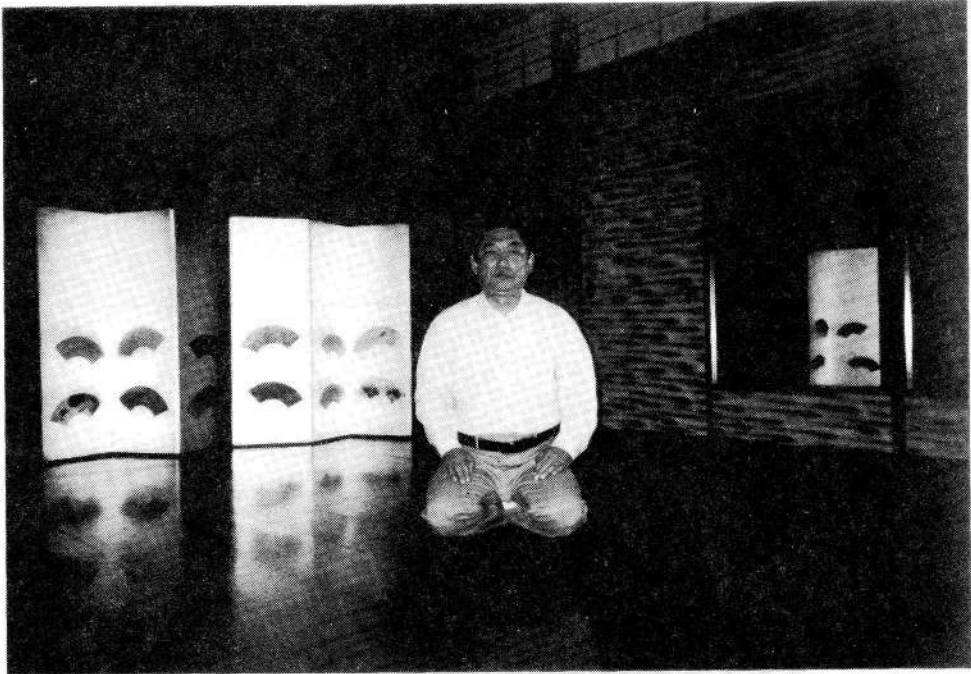
第
27
号

(平成七年度)

神
戸
大
学
能
楽
部

風韻第27号目次

* 御挨拶 . . . 師匠	藤井 徳三 . . .	3
* 二度目の新旧師範交替に際して . . . 神戸大学名誉教授	藤井 茂 . . .	4
* ひとりよがりの戒めを受けて O B 会長	米花 稔 . . .	4
* 藤井久雄先生の思い出 前顧問教官	荒川 祐吉 . . .	5
* 師匠藤井久雄先生の思い出 顧問教官	井川 一宏 . . .	6
* お礼のことば 新四回生	牧 千雄 . . .	7
* 「琵琶」の思い出 新三十四回生	梅園 健治 . . .	8
* 扇を折りなさんなよ 新四十三回生	清水 正治 . . .	9
* 久雄先生へのお礼 新四十五回生 幹事長	岩城 真一 . . .	10
* 平成六年活動内容		10
* 平成六年決算報告		12
* 役員紹介		13
* 編集後記		13



御 挨 拶

師匠 藤井 徳三

もとより明治生まれの父と異なり、同じ観世流でも謡、型共に多少の違いがあり、多分に戸感われる方も出てこられる事と思いますが、しばらくすれば慣れ、また楽しく謡い舞う事が出来る事と存じます。

現在、能楽愛好者は増えつつあるとは言われておりますが、何分にも若い方が少なく、憂慮せざるを得ません。貴能楽部が先達となられ、益々愛好者を増やされることをお願いし、又私たち能に携わる者におきましてもその努力を惜しまず努めていきたいと存じます。

この度父の後を引き継ぎ、伝統ある神戸大学能楽部の指導をお引き受けさせて頂くことになりました。

二度目の新旧師範交替に

際会して

神戸大学名誉教授 藤井 茂

宇治正夫先生の後を享けて神戸大学能楽部師範として十三年間学生部員を御指導下さった藤井久雄先生が今度は御令息藤井徳三先生に師範を譲られることになり、去る七月二十日、顧問の井川一宏教授をはじめ関係者一同が揃って熊内町の先生宅を訪ね、久雄先生には多年御薫陶の御礼を申し上げ、神戸大学からの感謝状を捧呈、また徳三先生には今後の御依頼の挨拶を申し上げます。

十三年前に同じ場所である当時の顧問荒川祐吉教授をはじめ関係者一同が藤井久雄先生に御就任依頼の御挨拶を申し上げます、先生から快諾の御言葉を頂いて感激したことを思い出

し、こうした師範交替の大事な機会に二度までも立会えたことを無上の光栄と感銘している。

藤井久雄先生は、能楽師として全国的に知名度が高く、人間味も豊かな方である。御令息徳三先生についても同様で、こうした卓越した先生方の指導を受ける能楽部員は幸であるというべきであろう。

ひとりよがりの戒めを 受けて

神戸大学名誉教授 O B会長 米花 稔

宇治正夫先生から引き継がれて、十余年学生指導いただ

いた藤井久雄先生に心からお礼申し上げると共に、今後も
続いてきびしく暖かい眼で見守り折りにふれて御指導いた
だければと、OB会長として心からお願ひ致します。

私個人としては、なんといつても春秋二回の学生発表会
に、OBのひとりとして参加の機を得、直接間接御指導い
ただいたことに感謝しております。その際先生は地頭をつ
とめていただき、先生の前あるいは横に座して、平素ひと
りよがりの我流に陥り勝手を厳しく導かれている思いで、
またこれが楽しみでした。小生の研究生活さえ指導される
思いでした。心からお礼申し上げます。

どうか能楽会の先導者としていつまでも御健勝であらせ
られることを祈っております。

藤井久雄先生の思い出

前顧問教官 荒川 祐吉

宇治先生の社中の会で、援助出演して下さった藤井久雄
先生の、すばらしいお声にききほれたのが、最初の思い出
です。宇治先生が退かれることになり、後継の師範には藤
井久雄先生をお願いする他ないとの御判断を受け、藤井茂
先生と共々、初めて久雄先生のお宅へお願いに参上いたし
ました。先生には快く御引見賜り、昔京大の学生を指導し
たこともあり、学生の指導には興味と関心を抱き続けてき
たが、改めて学生を指導するについては、大いに情熱を以
てあたりたいたいの有難い御意向を承りました。御要望によ
り「風韻」の最初からのセットをお持ちしていました、
先生からは、自叙伝「鶏肋抄」を頂戴し、興味深く一気に
読み了ったことも思い出されます。御自作の新曲能「菊水」
の、湊川でのご披露の拝見、御自作の能面をつけて舞われ
たお写真を配した賀状など、心に残ることは限りなくあり、
先生の偉大さを敬慕申し上げている次第です。

師匠藤井久雄先生の

思い出

顧問教官 井川 一宏

一九九五年は忘れられない年になります。私は、一月から五月までハワイ大学に出張になっていましたので、師匠の一〇年以上にわたる指導に対して神戸大学から感謝状をさしあげること、三月の歓送会に出席できないこと、に關して新しい学生幹事長にいろいろお願いしておきました。ところが一月一七日の地震のため、全ての予定が崩れてしまいました。そのなかで、歓送会の代わりの会合が企画され、能楽部の近況が確かめられたことは喜ばしいことでした。私は一時帰国しましたが、五月中旬予定通り出張を終え神戸大学での活動を再開しておりました。

六月はじめ、学生幹事長から師匠交代のお話があったと聞き、急いで師匠のお宅に事情を伺いに参じました。先生のお宅も、地震で被害を受けておられましたが、学生に指導状況に特別な変化が生じた訳ではなく、足が痛いから仕舞を丁寧に見られないので交代を、というご返事でした。

すぐに名誉教授の藤井茂先生・前顧問教官の荒川先生・OB会長米花先生にもご相談の上、師匠に次の方を決めていただく条件で、交代のお話を受けることになりました。幸いにも、藤井徳三先生が新しく引き受けてくださる運びとなり、七月二十日、師匠の御自宅に引継の御挨拶に参りました。三代の顧問教官とOBの梅園君・学生幹事長以下ほとんどの現役が伺い、丁度間にあつた神戸大学からの感謝状と銀杯を師匠に納めていただくことができました。徳三先生も早速稽古の場所・日時を検討して下さいました。

無事ことが運び、ホット致しましたが、誰もまねることのできない師匠の芸に間近に接する機会が少なくなることを、とても寂しく感じております。強い愛情と誇りをもって指導に当たって下さったことを、いつも感じておりましたが、心から感謝しております。

お礼のことば

新四回生 牧 千雄

藤井久雄先生、長い間、私達の後輩をご指導戴き、本当にありがとうございました。

私は先生には、直接、ご指導を戴く機会を得ることは出来ませんでした。が、学生の中から、藤井先生の舞台はいつも感動をもって拝見しておりました。素人の私が、観世にこの人ありと聞こえた藤井先生について云々するのは、おこがましいですが、何と言つても、先生の舞台は、一種の華麗さを見せて下さるお能であります。当時、先生は関西学院の指導を引き受けておられ、そのご薫陶で、関西学院の学生の謡や舞も、自然、華麗さを見せる芸風になつていったように思います。しかしこれも私の勝手な感想であります。が、藤井先生の華麗さは、いわゆる派手なきらびやか

さや、技巧的な芸風による奇麗さではありませんで、きわめて鍛え抜かれた、素直ともいえる表現のなかに、何やら不思議な華やぎのある舞台が、自然と展開していく、いわば誰にでも納得の行つて、しかも華麗な舞であるように自分で思いこんでおります。大変失礼な表現であります。藤井久雄先生もまた宇治正夫先生も、明治の男そのもののような風貌で、どうすれば熊野や班女になれるか、どう考えても不思議ですが、唐織で舞台に出現すれば、本当に小さくなつて、華麗さが輝くのであります。恐らく、この魔術のような変化こそが、芸そのものであろうかとおもつております。

今日まで、神戸大学の能楽研究が続いてきましたのも、ひとえに、藤井先生のご自分を忘れてのご指導の賜物と考えますが、それ以上に、先生の完成された華麗でしかも骨のある芸風が、若い後輩達を引き付けて止まなかつたのではないかと、感じております。

先生のお陰で、学生達は、単なる芸の技術ではなく、芸の底にあるべき、基礎基本を徹底的にたたきこまれ、伝統の中に息づいている人間としての感動を、会得したのではないかと思ひます。

思えば我が後輩たちは、またとなく得難い師匠を得、またとなく会い難い先達にめぐり会えたのではなかったか、と考えております。恐らく、彼らは一生、藤井先生に感謝し続けるでしょうし、受けたご薫陶には、それでも感謝しきれないことでしょう。

私共卒業生も、若いときからの憧れの藤井先生の警咳にふれることができました、大変幸せでありました。

藤井先生、有り難うございました。

「琵琶」の思い出

新三十四回生 梅園 健治

四年ほど前のことですが、私はある先生のご好意で、神

戸湊川で「玄象」の龍神の役をすることになりました。面・装束を付けるのは初めてのことで有頂天になっていましたが、ここで一つ難問がでてきたのです。面・装束はその先生が東京から持参下さることになったのですが、作り物の「琵琶」は輸送困難につき、自分で調達しなさい、ということになったのです。そもそも舞台に立つことは自分では勝手に決めてきたことですから、藤井先生に相談できるようなことではありません。と言っても自分ではどうしようもないので、先生の所へ行き、思い切って「琵琶を貸して下さい」とお願いしてみました。

ところが先生は、お安い御用、とご自身ですぐ蔵へ行ってください、貴重な作り物の「琵琶」をとってきてくださいました。その上尚装束の着付けのことなどをいろいろとご心配下さり、最後に「がんばって良い舞台にしなさい」と優しくお声をかけて下さいました。不躰なお願いに、叱られるのではとドキドキしていた私は、嬉しくて涙が出そうになりました。お借りした「琵琶」は、かなり大型で、まるでギターの骸骨のようで、帰りの電車の中では結構目立ったのですが、余りの嬉しさにその「琵琶」を抱きかかえて帰ったことを今でも思い出します。藤井先生にご指導

いただいて私たちは本当に「能」が好きになりました。今でも時々集まっては「能」の話で盛り上がっています。発表会で何か番組を出そうということになると皆すぐに乗って来ます。その理由をいろいろ考えたりするのですが、やはり私たちが「次はこんなことしてみたい」といろいろ無理な相談を持って行っても、藤井先生が決して咎めることなく、優しく見守り、導いて下さったことが最大の原因ではないかと思ったりします。

藤井先生は学生の指導の第一線からは退かれるとのことですが、これからも私たちはかまわず無理な相談を持って行くかも知れません。変わらずご指導いただきたいと思っています。

扇を折りなさんなよ

「扇を折りなさんなよ」

これは久雄先生が新入部員に必ず言われる言葉です。この言葉は途中で投げ出したりしないようにという意味なのですが、はじめてこの言葉を聞く部員たちは意味がわからず、後で先輩たちに教えてもらうのです。私が今も能楽部に居続けるのも、この言葉が胸の片隅に残っているからかも知れません。

一年の時、別に能楽に興味はありませんでした。先輩たちと一緒に居るだけで良かったのです。でも、二年になって部員が変わり、部の雰囲気も変わり始めた頃、自分が能楽に興味がないのなら四年間続けることはできないと思い始めました。とにかく、一生懸命能楽に打ち込んでみよう。それで興味が持てないのなら仕方がない、と考えたのです。今も、部室で練習している自分がいます。扇を折らなくて本当に良かったと思います。この部で得た友人や経験が、必ず将来の糧となると思うから。これから社会に出て、自分の人生に迷いが出た時は思い出そう。久雄先生がいつも言われていた、「扇を折りなさんなよ」を。

久雄先生へのお礼

新四十五回生 幹事長 岩城 真一

入部して間もなく、久雄先生のお宅に初めてお稽古に伺わせていただいた時、先生の謡を聞き、その声の質のすばらしさと、たつぷりとした声量に圧倒されました。もちろん、今年六月まで先生にご指導いただいておりますが、その謡の声は変わることがありません。

幹事長の職に就くと、先生とお話する機会も多くなりました。特に震災以後、先生に御相談申し上げることが多くなりましたが、先生は快く相談にのって下さいました。今回の自演会を催すに当たり、久雄先生に御尽力いただいたことは言うまでもありません。

久雄先生には長い間ご指導いただき、本当にありがとうございました。

平成六年活動内容

三月 春合宿（於 小豆島 きらく荘）

練習曲「嵐山」「東北」「鞍馬天狗」等

（一年生）

「屋島」「安達原」等（二年生）

歓送謡会（於 松泉館）

舞囃子「野守」 新谷 宏

「巻絹」 土手下 和美

仕舞「清経」 前田 祥城

四月 新歓発表会（於 神戸大学学生会館和室）

新入生勧誘活動の一環として

仕舞を十番ほど発表しました。

五月 旧三商大発表会（於 九阜会館）

一橋大・大阪市大と

合同で発表会を催しました。

ジュニア合宿（六甲パーラー）

二年生が一年生に謡・仕舞を教えました。

六月 学連春季発表会（於 大槻能楽堂）

一年生 連吟で初舞台

二年生 仕舞

新歓コンパ（於 六甲パーラー）

一年生を正式に迎えて行います。

三大学合同発表会（於 上田能楽堂）

全員の仕舞・素謡を発表しました。

八月 夏合宿（於 氷ノ山家）

練習曲「菊慈童」「羽衣」「紅葉狩」等

（一年生）

「賀茂」「敦盛」「船弁慶」等

（二年生）

十一月 六甲祭 恒例の焼鳥屋「猩々」を出店

自演会（於 松泉館）

舞囃子「松風」 南 麻弥

「安宅」 竹林 英樹

「融」 土屋 吾朗

「猩々」 山本 知子

十二月 クリスマスコンパ（於 居酒屋いろは）

みんなでプレゼントの交換をしました。

平成六年決算報告

* 収入の部

・部費	¥	3 1 3 、 5 0 0
・育友会助成金	¥	1 4 0 、 0 0 0
・発表会のため徴収	¥	4 1 2 、 7 0 0
・先輩寄付金	¥	9 0 、 0 0 0
・前年度繰越金	¥	6 6 9 、 3 7 0

(合計) ¥ 1 、 6 2 5 、 5 7 0

* 支出の部

・先生謝礼	¥	3 6 0 、 0 0 0
・自演会	¥	2 9 1 、 4 5 0
・旧三商大発表会	¥	1 0 0 、 0 0 0
・三大学合同舞台	¥	9 5 、 0 0 0
・通信費	¥	7 0 、 0 0 0
・備品購入	¥	1 0 0 、 0 0 0
・その他	¥	1 1 9 、 7 7 0
・次年度繰越金	¥	4 8 9 、 3 4 2

(合計) ¥ 1 、 6 2 5 、 5 7 0

* 役員紹介 *

◆幹事長・・・岩城 真一(済三)

♥副幹事長・・・岡田ひとみ(文三)

◆会計・渉外・・・林 敬二(工三)

♥渉内・・・石川 依子(医三)

♥渉内・・・梅野 妙子(医三)

◆文総委員・・・森田 一成(工三)

◆風韻・・・石津 知則(法三)

㊦ 編集後記 ㊦

◎「風韻」第二十七号をお届け致します。

お忙しい中、原稿をお寄せいただけました皆様方に深くお礼申し上げます。

◎師匠が藤井久雄先生から藤井徳三先生へと御交代されたのに際し、今号の「風韻」もその趣旨で、今まで御指導下さった久雄先生への感謝の気持ちを込めて編集致しました。久雄先生、本当に有難うございました。

◎徳三先生の下、部員一同自演会に向けてより一層練習に励み、是非成功させたいと思っております。

編集者 石津 知則

土屋 吾朗